

IAATO クジラ類ウォッチングガイドライン¹

ガイドラインは、船、小型ボート²、カヤックなどを含むすべての船舶に適用されます。

潮吹きを見たら、慎重に行動

接近したり、観察したりするときは、定められた距離に従ってください。より近い距離で交流できるかどうかは、動物の状態によります。

クジラとの遭遇

クジラがいる場合、すべての船舶（船、テnderボート、小型ボート）は10ノット以下まで減速してください。400mの距離に近づいたら、5ノットまで速度を落とす準備をしてください。400mの距離で、船の安全が確認されたらエンジンをアイドリング状態にしてください。クジラが通り過ぎるのを待ってください。クジラの予測進路上に、船が位置していることのないようにしてください。

クジラが船体近くで浮上したら、速度や方向を急に变えずに、必要な予防措置をとって衝突を回避してください。予防措置には、船舶の減速、ゆっくりと停止、旋回して動物から離れるなどがあります。

クジラとの遭遇はその時々で異なります。個体や種によって、船舶の存在に対する反応がまったく異なる場合があります。クジラが自動的に船の存在に反応すると思わないでください。

どのような場合でも、動物と遭遇したときは、動物が動揺している兆候を示していないか監視してください（詳細は、下記3.0の行動の変化に関する項を参照）。

クジラが船のスピードに合わせて泳ぐと舐めたり船尾に近づいてきたら（バウライドと呼ばれる行為）、針路と速度を一定に保つか、速度を徐々に落としてください。バウライドを促すためにイルカの群れに入っていく行かないでください。

動物を追いかけたり追跡したりする行為は、絶対にしないでください。



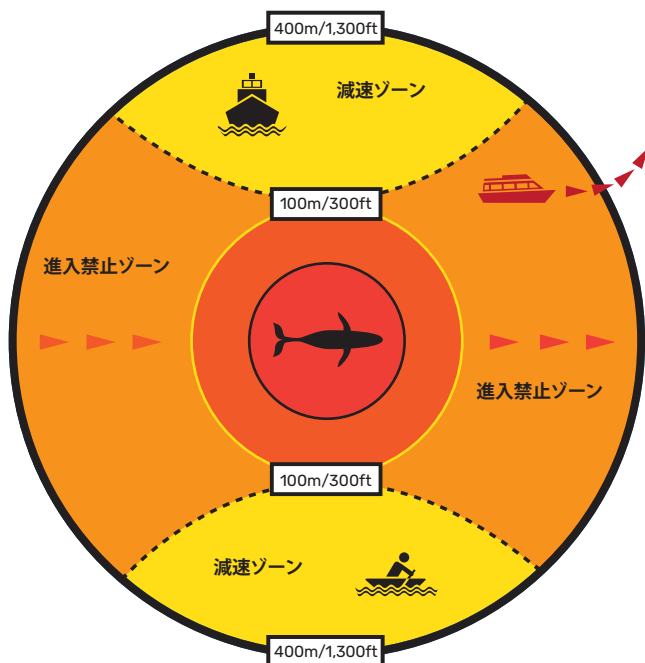
¹ 船舶の運航者は、国内、国際、またはIAATOの速度制限に関する追加要件を遵守する必要があります。一部の地域では、クジラに対する干渉および肉体的傷害を軽減するために、年間を通じて特別な保護措置がとられています。IAATOの野生生物ウォッチングおよびその他のガイドラインは、国内政府の法律に取って代わるものではありません。一部の国では、IAATOのものを超える、より厳しいガイドラインや規制が存在し、IAATOのガイドラインよりも優先される場合があります。そして国の規制に違反すると罰金、懲役刑や極端な場合には、船舶の押収によって罰せられます。

² 本文書では、「小型のボート」をソディアック型の空気注入ボートとして定義し、複合または半複合のゴムボート、あるいは海岸での見学に使用される同様の上陸用小型船を指します。

クジラへの接近(船、小型ボート³、カヤックなどを含むすべての船舶が対象)

クジラ類には、決して正面または真後ろから接近しないでください。

クジラの側面から、斜めに接近してください。動物の予測進路上に入らないでください。



ゾーン1:400m

5ノット以下、かつ波が立たない速さに減速してください。

摂食中の兆候(水面下の泡、鳥の群れなど)に注意してください。摂食しているヒゲクジラからは200メートル/600フィート以上距離をおいてください。

母親クジラには近づかないでください。母子のクジラのペアには、200m/600フィート以上近づかないでください。

ゾーン2:100m

小型ボートやウォータークラフトを含むすべての船舶は、この距離を保ってください(時としてカヤックの方がステルス機のように静かに接近するため、クジラをより動揺させる場合があることが研究でわかっています)。

- 接近したり、観察したりするときは、定められた距離に従ってください。より近い距離で交流できるかどうかは、動物の状態によります。
- 船が100メートル/300フィートの距離を保っていない場合、エンジンをニュートラルにし、クジラが通り過ぎるのを待ってください。小型船はプロペラの使用を避けてください。
- 大型船は、位置を維持するために触先または船尾の平行船首舵を使用することは避けてください。これらは、高音や集中的なキャビテーションを発生させる場合があります。

クジラウォッチングとクジラを動揺させない行動パターンの理解

動揺させると、動物の行動が変わる恐れがあるため、様子に注意してください。

次のような行動は、ストレスや動揺のあらわれである場合があります。

- 唐突なまたは不規則な動きをする、進行方向を変える
- 方向またはスピードの定期的な変化
- エリアから離れる
- 明白な動揺
- 急な潜水
- トランベットのような大きく鋭い音を鳴らして潮を噴き出す(トランベットブロー)

ブリーチング、尾ひれまたは胸びれを水面に叩きつける行動は、仲間のクジラと交流中または摂餌中であることを示し、船の存在に(視覚的または聴覚的に)気づかない可能性があります。少なくとも400m離れてください。これらの行動も、ストレスの兆候を示すものです。

動物との距離に関わりなく、行動の変化に気づいたら、安全なことを確かめて、動物をそのまま行かせるか、ゆっくりと慎重に(波が立たない速さまたは5ノット以下の速度で)その動物から離れてください。

特にシャチには注意が必要です。とりわけ獲物を狩っているときのシャチは、船に反応しない獲物をエサとするクジラよりも干渉に影響されやすいことがあります。

海岸付近を移動するときは、クジラより海岸(陸)側に留まるようにしてください。

複数の船がいると、海洋哺乳類を動揺させる可能性が高くなります。

決して群がったり(取り囲んだり)、海洋哺乳類の群れに分け入ったり、散開させたりしないでください。特に母親と子供には注意してください。



³ 本文書では、「小型のボート」をソディアック型の空気注入ボートとして定義し、複合または半複合のゴムボート、あるいは海岸での見学に使用される同様の上陸用小型船を指します。

水中の動物を見るときは、最大で船2隻、または小型ボート4隻で観察することが推奨されます。複数の船舶と一緒に動物を観察する場合は、船を寄せ合って、動物が通れる開放的で大きな道を確保することを考慮してください。

他の船舶、動物、障害物（海岸線など）に注意して、動物を閉じ込めることがないようにしてください。動物の移動と出口のルートに障害がないか確認し、小型ボートが「トンネル」になってしまわないように確認してください。付近で野生動物を観察している他の人たちと協力してください。

動物と過ごす時間は、最長で30分です。動物と過ごしている間に、動揺している兆候を示したら、静かにゆっくりと退却してください。

海洋哺乳類が船に接近してくる場合があります。また、交流を求めて船体に身を寄せてくることもあります。このような場合、船がとるべき最善策は、風と潮の流れを考慮して動物と接近しすぎないようにし、その他の安全に注意を払いながら波に身を任せることです。ただし、波に任せている場合、たとえ許容できる距離をとっていたとしても、クジラの進路上に漂流することのないようにしてください。意図的に接近したと捉えられる可能性があるからです。100m以内の近い距離での交流は、動物に主導権を持たせることが重要です。

シャチがカヤックに接近して、スパイホッピング（海面から頭を出して様子を目で確認する行動）を始めたら、カヤックの近くに安全用の小型ボートがあることを確認して、必要であれば、カヤックに乗っている人を小型ボートに移すことを検討してください。

すべての船舶運航者は、船の動きとエンジン活動を一定に維持するように努め、ゆっくりと移動してください。

動物を驚かせるまたは動揺させる可能性のある、急な音の変化を防いでください。たとえば、過剰なエンジン稼働、ギアの変更、方向転換、動物からの後退などです。

小型ボートでは、エンジンのオンとオフを切り替えないでください。声および無線機の音量を小さくしてください。口笛を拭いたり、大声を出したり、ボートの側面を叩いたりしないでください。

クジラやその他の野生動物のいるエリアで運航する場合、屋外放送システムを使用する前に十分に考慮してください。

絶対に動物に触ったり餌を与えたりしないでください。

水中音はいかなるものでも再生してはなりません。水中音を聞くために小型ボートで水中聴音器を使用する場合、安全であることを判断したうえで、小型ボートのエンジンを切るのが望ましいでしょう。

クジラ観察エリアからの移動方法

400m/1,300フィートの距離まで、ゆっくりと波が立たない速さで進んでください。動物から400m以上離れ、進行方向付近に他のクジラがいないことを確認できるまでは、速度を上げないでください。

離れるときは、動物の正面を移動するのは避け、常に後方に向かって移動してください。

